

被災者の見守り・相談支援



- 被災者の孤立を防止するため、仮設住宅入居者を中心に昨年7月から全県下で実施
- 仮設住宅(建設型)のある9市町では、各市町が社会福祉協議会等に委託、上記以外でみなし仮設住宅等のある10市町では、県が受入市町社会福祉協議会に委託して実施
- 社会福祉協議会等から雇用された、生活支援相談員(自治会長や民生委員経験者等)が、仮設住宅等の被災世帯を個別に訪問
- 健康状態に問題はないか、困りごとがないかなど声掛けや傾聴し、必要に応じて介護事業者などの支援機関につないでいる
- 県は、県地域支え合いセンターを設置し、生活支援相談員に研修等なども実施



- 生活支援相談員約200人が、被災世帯13,000世帯を延べ8万回訪問
(1~2カ月に1回、健康面や生活面に問題があり、丁寧な対応が必要な場合は週1回)

<被災者・支援機関等の声>

- ・様々な支援制度のチラシの内容が理解できなかったが、相談員に教えてもらい助かった
- ・相談員の聞き取りを通じて、災害ボランティアのニーズ把握ができた

広域避難された被災者向けのカフェ・サロン



課題：広域避難された被災者は、顔見知りとも離れ離れとなり、地域との交流や外出の機会も減少

⇒被災者同士の交流を促すため、県が各市町の社会福祉協議会に設置した地域支え合いセンターが中心となり、カフェ・サロンを実施

- 内容
- ・被災者どうしの交流・歓談
 - ・健康体操などのレクリエーション活動
 - ・住まい・生活等の相談会を同時開催
 - ・市町の広報誌や支援物資の提供

実績：県南 7 市町でこれまで累計 1 0 0 回開催

- 金沢市「あつまらんけ〜のと！」
- 白山市「のとカフェはくさん」
- 小松市「さわふれカフェ」
- 能美市「じんのびカフェ」
- 野々市市「のといろカフェ」
- かほく市「ほっこりカフェ」
- 内灘町「能登あつまらんけカフェ inうちなだ」

＜参加した被災者の声＞

- ・離れ離れになった人と再会できてうれしい
- ・今後も交流会があったら参加したい



被災者の介護予防支援

昨年6月から、県リハビリテーションセンターが、能登6市町の病院のリハビリ専門職と連携し、仮設住宅や被災自宅で閉じこもりがちな高齢者等の要介護化や状態悪化を予防

○ 仮設住宅の集会所等で介護予防のための教室を開催

34団地の集会所等で週1回の活動を展開
延べ約300回開催、3千人が参加

【活動メニュー】体操、脳トレ、手芸、塗り絵、書写、園芸など

➡ 団地の自主運営への移行を促しながら、今後も
順次拡大



参加者の声

- ・ みんなと顔を会わせて、一緒に体を動かせるのが楽しい。
- ・ 介護予防の大切さが分かった。
- ・ 集会所で話相手や友人ができた。
- ・ 畑作業もしたい。

○ 仮設住宅への個別訪問による相談支援、仮設住宅の生活環境の改善

【支援内容】

- ・ 生活の困りごと相談支援
- ・ 仮設住宅での車いすの生活動作の支援
- ・ 個別の身体機能や生活ニーズに合わせた住宅改修（新たな手すり取付け等）

見守り・相談支援からの
情報を受けて個別訪問

➡ これまで全団地200戸余りの改修要望を受けて、順次、改修工事を実施中



仮設住宅の住民の声

- ・ 浴室の踏み台と手すりの取付けで、お風呂に不安なく入ることができた。
- ・ 生活動作支援のおかげで、車いすでも安心して在宅生活ができる。

被災者の食生活支援

仮設住宅等への入居に伴う環境変化により、食生活の乱れや栄養バランスの悪化が懸念
➔ 昨年10月から、食生活の面から被災者の健康維持を支援

◆ 県が栄養士会と連携し個別訪問による栄養指導を実施

- ・食事の状況や体の状態について聞き取り
- ・被災者一人ひとりの状況に合わせ、食事内容や調理方法等について助言

6市町で70回
1,321人を支援



被災者の声

- ・栄養バランスを考えて調理したい。
- ・定期的に体重測定し、自分の体の変化に目を向けたい。

◆ 県が食生活改善推進協議会と連携し料理教室を開催

- ・野菜摂取を促す料理、IH・電子レンジ等の限られた調理器具で手軽にできる料理等の紹介

6市町で12回
197人を支援



被災者の声

- ・炊飯器がなくてもごはんを炊くことができることに感心した。
- ・料理の味付けもよく、自宅でも試したい。

◆ 県が歯科医師会と連携し口腔ケアを支援

- ・仮設住宅集会所等において歯科健康相談・指導、歯科健康教室等を実施

5市町で9回
408人を支援



被災者の声

- ・歯のことについて相談できてうれしい。
- ・口の健康が体の健康につながることをわかった。すぐにでも受診したい。

引き続き、被災者に寄り添い必要な支援を行っていく

いしかわ伝統工芸フェア2025の開催

- 2月7日から9日の3日間、東京国際フォーラムで「いしかわ伝統工芸フェア2025」を開催
- フェアは平成7年に始まり、首都圏のイベントとして定着しており、今年で30周年を迎える

伝統産業振興室 076(225)1526

内容

伝統的工芸品の展示・販売

県内全36の
伝統的工芸品が集結



カジュアル工芸展

若者や子育て世代向け
カジュアルな工芸品の展示販売



工芸体験教室・ テーブルコーディネート教室

輪島塗沈金や檜細工などの体験や
テーブルコーディネートの教室



復興応援企画

被災産地の復興に
に向けた取り組みの動
画やパネル展示



輪島塗の職人と
首里城の復元に
取り組む琉球漆
器の職人との交
流のパネル展示



ステージイベント

倒壊した工房から
見つかった漆塗りの
ヴァイオリンの演奏



ミス加賀友禅による
着物ショー



主催

石川県伝統産業振興協議会

イベントについて
詳しくはこちら



本県の伝統工芸の魅力を発信することで販路拡大を図るとともに、被災した事業者の支援にもつなげる